〇本邦産めひしば屬ニ關スル雜記 (津山 尚)

めひしば(雌日芝)ハ俗=すもとりぐき(相撲取草)トモ言と、 誰デモノ少年時代ノ追憶=懐カシイ草デアルガ、 又一方畠=生エルト仕末ノ悪イ雑草デ百姓泣カセノ最タルモノデアルコトハ洋ノ東西ヲ問ハナイ。英名ハ erab grass ト言と、彼ノ地デハナカナカョイ秣ヤ乾草ヲ提供スル由デアルガ、 日本デモ馬糧=スルタメニワザワザ作ツタリスルト言フ。邦産ノめひしば屬ノ 植物ハ同様=殆ンド雑草デアツテソノ中ニハ時代ノ新舊ハ別トシテ、遠イ外國カラ輸入サレテ増殖シタモノモ多イト思ハレルノデ、ソノ一ツ一ツノ正確ナ命名ハ難カシク、恐ラク世界的規模ヲ以テスルモノグラフ的研究=ヨルノデナケレバ、自信ヲ以テコレダト斷定スルコトハ困難デアラウ。 日本等デハコウ言フ研究ノ場合ニハ學問ノ歴史的發達ノ深ミガ足リナイノデ非常ナ損ヲスル譯デアルガ、 米國等デモ又歐洲ニ比ベレバ同様ノ嘆キヲ有スル=遠とナイ。

禾本ノ専門家タルHENRALD氏ハ以前カラコノ屬ノ分類ニ興味ヲ有シテキテ、旣ニ數年前 カラコノ屬ノモノグラフヲ發表スルコトヲ豫告シテヰルノデ、 ソノ出現ヲ大イニ期待シテ キタガ、最近ノ國際狀勢ノタメ、ソレモ何時ノコトカ判ラナクナツタ。東亞ノ熱帶ニハコノ 屬ニ入ルモノガ意外ニ數多ク、非常ニ似タモノデアツテ、シカモ明カニ別ノ種ニ屬スル様ナ モノガ多イノデ、HENRALD氏モ言ツテキル様ニ古人ノ記載ダケニ賴ツテ種ノ異同ヤ離合ヲ 論ズルコトハ出來ナイ。 コウ言フ狀態ニアルノデ邦産めひしば屬ノ各種ヲ凡テ明カニスル コトハ、自分ニハ到底不可能デアルガ、本田博士ノ御勞作タル Monographia Poacearum Japonicarum (1930) ガ出版サレテカラ、旣ニ十數年ヲ經過シ、ソノ間ニ最近迄種ペノ人 々ノ論著が發表サレタカラ、 諸家ノ説ヲ紹介シカタガタ氣ノツイタコトヲ述ベテ見タイ。 コノ屬ノ學名トシテハ Panicum ヤ Paspalum ガ用ヒラレテキタ昔ノ時代ハ知ラナイ ガ、大體=於テ Digitaria ガ慣用サレテ來タ。所ガ、米國デハ NASH氏ガ、"めひしば 類ノ屬名トシテ Digitaria HEISTER ex HALLER, Hist. Stirp. Helv. II, 244, 1768 ハ Digitaria Heister ex Adanson, Fam. Pl. II, 38 et 550, 1763 ト言っ先行名ガアツテ、 後者ハ今日ノめひしばノ類デハナク、全ク別者タル Tripsacum 屬ヤ Coix 屬ヲ意味スルコ トニナツテキルノデ、ソレハ用ヒラレズ、ソノ代リニソノ次ニ早ク出版サレタ Syntherisma WALTER, Fl. Carol. 76, 1788 ヲ用フベキデアル。"ト言ヒ出シ、他ノ米國系ノ學者ノ支持 ヲ得テ、最近迄コノ意見ガ行ハレテヰタ。所ガソノ後、米國ノ Hitchcock 氏自身、考へ ヲ變ヘテ "古クカラ用ヒ慣レテキル Digitaria ヲ捨テルコトハ徒ラニ命名上ノ變更ヲ多ク スルニノミ役立ツコトデアルカラ、 Digitaria = 關シテハ命名規則=例外ヲ設ケテ、 コレ ヲ所謂保留名ニシタイ。"ト提言シ、(HITCHCOCK in Rhodora XXIX, 114-119, 1927; MANSFELD in Fedde, Repert. XLIV, 296, 1938) ソノ他ノ著名ナ禾本學者 PILGER, HENRALD, MANSFELD ノ諸氏ノ賛同ヲ得テ、1940 年ノ命名規約會議ニカケテ殆ンド滿場 一致デ通過スルバカリニナツテヰタ。 ソレ故ニ戰爭ノタメニ會議ハ延期サレタケレドモ、 Digitaria ヲ保留名トスルコトハ殆ンド旣定ノ事實デアル。 東洋ノ禾本學者タル、我本田 博士ヤ耿以禮氏モ亦最近ハ賛成者デアル(本田正次: 日本植物名彙 1939 参照)。ソレ故ニ 以下ハ Digitaria 屬ノ下ニ筆ヲ進メテ行キタイ。尚和名めひじはハめひしばノ音便デアル カラ、以下デハ特殊ノ場合ノ他ハめひしばヲ用ヒル。

歐洲 = 最モ普通ナノハ D. sanguinalis (L.) Scopoli, 1772 (=Panicum sanguinale L. 1753) デアツテ小穂ノ第一苞頴ハ三角狀披針形デ長サハ 5 mm 位、第二苞頴ハ全小穂 ノ長サノ二分ノーニ達シテ平臥シタ白色ノ軟毛ガ多ク、第三苞頴(護頴ノコト、以下同様) ハ背面ノ平タイ部分ハ平滑デ、ソノ部ニ三脈ヲ認メ得、顯果ヲ抱イテキル爲ニ内曲シテキル 稜角/所及ビ線邊ニハ上方ニ向ツテ平臥シタ、長イ白色軟毛ヲ有シ、コノ毛ハ開花時以後ニ ハ廣ク開出スル。今迄コノモノノ變種= D. sanguinalis var. ciliaris (RETZIUS) DOELL 1843 (=Panicum ciliare RETZIUS, 1786) トシテ知ラレテ來タモノガアル。コノモノハ第 三頴苞ノ稜角ノ部ニ上述ノ毛ノ他ニ、ソレニ混ツテソレヨリ數倍太イ剛毛ヲ多數疣狀ノ突 起ノ臺ノ上ニーツ宛有スル型ノモノデアル。所ガ HENRALD氏ニヨルト P. ciliare RETZIUS ハ南交及ビジャバデ書カレタモノデ、歐洲ノD. sangunalisニハ關係ノナイモノデアルノデ、 歐洲産ノ剛毛ヲ有スルモノニ對シテ、新タニ subsp. pectiniformis HENBALD (Blumea I, 93.1934) ト命名シタ。 サテソレデハ日本内地産ノめひしばハ如何ト言フェ、ソノ大部分 ハD. sanguinalis ソノモノ (subsp. vulgaris Henrald l.c.) = 屬シ、時 = pectiniformis 型ノモノヲ混在スルニ過ギナイ。後ノ型ノモノニツイテハ新タニ**くしげめひしば**ト命ジタ イ。 第三顯苞ノ剛毛ハ混在スル軟毛ト共ニ開花前ニハ上方ニ向ツテ平壓サレテキルノデー 寸見難イガ、開花後ニハ軟毛ヲ越エテ櫛ノ歯ノ様ニ擴ガルノデ明瞭トナル。日本産トヨー ロッパ産トヲ較ベテ見ルトヨーロッパ産ノモノノ方ガ剛毛ノ敷ガ少ク且ツ太ク又ソノ基部ノ 臺ョナス疣狀突起ガ大キク明瞭デアルガ、日本産ノソレハ反對デアル。 コレラノ平行シタ 一連ノ對比的ノ性質ハ剛毛ノ數ガ多イト言フコトカラ誘導サレル形態學的ノ制約ニ基クモ ノト想像サレル。 即テ日本産デハ剛毛ト剛毛以外ノ軟毛トノ差ガ少クナリ、極ク稀ナ場合 ニハ兩者ノ中間的ノ様ナモノモ生ズル。 支那産ノ一枚ノ標本ヲ見ルト歐洲型ノモノデアツ タデ、東洋ノモノト歐洲ノモノトが對立シタ性質ヲ有スルトハ考ヘラレナイ。多クノ歐洲産 ノ標本ヲ見レバ、ソノ中ニ或ハ日本産ノ様ナ型ノモノモ發見出來ルカモ知レナイ。今ノ所、 日本型ト歐洲型トハ命名シテ區別スル程異ツテキルトハ考ヘラレナイ。 唯ダ HENRALD 氏 ノ意見ト異ルコトハ剛毛ノアルモノガ一般ニ基本型ノモノニ混生スルコト、 又極ク稀デハ アルガ中間型ガ生ズルコトモアルコトヲ考ヘテ、 コノモノヲ變種トシテ扱ツタ方ガヨイト ノデハナイカト考へル。即チ Digitaria sanguinalis (L.) Scopoli var. pectiniformis (Henrald) Tuyama comb. nov. (= D. sanguinalis subsp. pectiniformis Henrald l.c.) トナル。 Digitaria ciliaris var. hystrix Steudel ex Miquel, Prolusio Fl. Japon. nom. nud. モ又コノ變種ト同一物デアラウト想像サレルガ、惜ムラクハ裸名デアル。今迄 日本デ Syntherisma sanguinalis var. ciliaris めひしば又ハけめひしばト言ハレテキタモ ノハ特ニ剛毛ガアル故ニソウ言ハレテヰタ譯デハナク、第三苞顯ニ一般的ナ意味ノ毛ノ多 イガ散ニソウ言ハレテキタモノデアル。第三苞頴ニ一般的ナ意味デ毛ガ多イト言フノナラ、 帝ンド大部分ノ D. sanguinalis ハソウデアル(植物學雑誌 X, 和文 314 頁牧野博士ノ記事参照)。 ソレ故= S. sanguinalis var. ciliaris デナク S. sanguinalis ノ基準型トシテとめひしばト呼バレテキタモノハ、ソレト對立的ナ意味デ、モノナイモノ又ハ僅カ=モノアルモノデアツタ。 小生ハこめひしばハ D. sanguinalis ノ貧弱型デアツテ、特=分類學的ノ群ヲナスモノデハナイト思フ。 ソレ故=、めひしば、とめひしば及ビけめひしばノ一部ヲ D. sanguinalis (L.) Scopoli ト呼ビ、代表的ナ和名ハめひしばトシ、又けめひしばト言ハレテキタモノノ中剛モヲ有スルモノ、即チ var. pectiniformis (Henrald) ハ上述ノ様=くしげめひしばト呼ブ様=シタイ。注意スベキコト=ハ var. pectiniformis ハめひしばノ貧弱型ノ中=ハ出ナイコトデアル。 又とめひしばト言レテキタモノノ中=ハ、狀態ノ悪イタメ、又ハ特=温度ノ高イ地方=生エタタメ=貧弱=ナツテ、同時=モノ殆ンドナクナツタモノノ他=、普通=生育シテキルモノノ中、開花前ノ標本ナルガタメ=モガ目=ツカナイモノモ往々=シテ誤ツテ混入シテキタ様デアル。 とめひしば=就テハ各自ノ色々ノ説(例へバ檜山庫三氏野草三巻四號ノ説)ガ今迄アツタガコノ類=ツイテハ後=モウー度述べル。

めひしば=ハ他 = D. sanguinalis var. multinervis (Honda) KITAGAWA, Lineam. Fl. Mansh. 72, 1939 (=D. multinervis Honda, 1936 = S. sanguinalis var. multinervis Honda, 1924) **すぢめひしば**ガアリ、第三苞類ノ背面=明カ = 5 脈ヲ認メ得ラレルモノデアル。滿洲、支那及ビ臺灣カラ知ラレテキルガ、將來更=各地デ發見サレル可能性ガアル。 尚本種ノ變種タル可キモノ=朝鮮、慶尙南道、東萊、樂民洞デ柳幸太郎氏ガ採集シター標品ガアル。 コノモノハ全株無毛デ、大形デアリ、痩穂軸ノ幅ハ廣ク、ソノ上=普通一個所カラ 2 個宛對ヲナシテ配列シテ居ルベキ小穂ガ、4 個又ハ 3 個宛叢生シテ出テキルモノデアツテ、恐ラク細胞學的=變化ヲ起シタモノト思ハレル。ソノ學名ヲ

Digitaria sanguinalis (L.) Scopoli var. duplicata Tuyama var. nov. A typo differt, foliis culmisque robustioribus glaberrimis, rhachidibus spicarum latioribus ad 1.5 mm latis, spiculis glabriusculis et quartanis vel ternatis non binatis dense dispositis.

Spec. typicum: Tyôsen, Prov. Keisyô-nandô, tractu Tôrai, Rakumindô, in agris (leg. Kôtarô Yanagi, no. 19, Aug. 16, 1928 in Herb. Univ. Imp. Tokyo), トシ、 着 ほかなしばト呼ビタイ。

從來 Syntherisma sanguinalis var. evalvula トサレテキタモノノ中、琉球、臺灣及ビ九州南部カラ報告サレテキルモノハ Digitaria microbachne (PRESL) HENRALD, 1930 (=Panicum microbachne PRESL, 1830=Panicum sanguinale var. microbachne HACKEL in ENGLER, Bot. Jahrb. XIII, 259, 1891=Syntherisma microbachne HITCH-COCK, 1922) デアル。コノモノハー見 D. sanguinalis =近イガ、敷 cm 以上 10 cm = 達スル主軸ノ上=疎開シ、又ハ敷段=離在シテ輪生スル痩穂ヲ有シ(尤モ D. sanguinalis モ伸ビタ主軸ヲ有スルコトガアルガ、程度ガ低イ。)第一苞類ハ無イカ又ハ極小形デ0.2 mm

以下、第二苞類ハ鈍頭デ小穂ノ敷分ノ一ノ長サシカナイ。萃ヤ葉ノ毛ハ D. sanguinalis ノ ・モノト同様デアル。初メ PRESL 氏ニョツテ報告サレテ以來、原標本ノ産地ハ不明ノ儘デア ルガ多分フィリッピンダト想像サレテキル。今ハオーストラリヤ、メラネシア、ポリネシア、 マレーシア、南支、印度支那、印度ニ分布スルコトガ分ツテキル。日本デハ臺灣、琉球ニハ 最モ普通デ、奄美大島ニモアル。或ハモツト北ニマデ分布シテヰルカモ知レナイ。小笠原島 ニハナイガ、我南洋群島ニハ入ツテキル。南洋群島ニハ第二苞頴ガ全然無毛ノモノガアル。 琉球及ビ臺灣産ノモノハ第一荷顯ガ桑然ナイモノガ大部分ヲ占メ、 第一荷顯ヲ認メ得ルモ ノハ十數枚ノ中唯一枚ノ標本ニ於テニ過ギナカツタ。又臺灣産ノモノノ中ニハ第二苞頴ガ 小穂ノ三分ノーニ迄達スル程大モイモノモテル。 南洋産ノモノハ第三苞頴ノ側脈ノ内方ニ 更ニ別ノ脈が接近シテ明カニ見ラレルが、琉球、臺灣ノモノハソレ程明カデナク、時ニハ全 ク不明トナル。シカシコレラハ皆種ノ中ノ變化ノ範圍内ニアルモノト考ヘラレル。MERRILL 氏及ビ細川氏ガ D. corymbosa (Roxburg) Merrill (Enum. Philip. Flow. Pl. I, 53) ノモトニ引用シタフィリッピン 及ビ南洋群島ノ標本 (Journ. Trop. Agr. Taihoku, VII-4, 314) ハ本種デアラウト思フガ、ソコノ異名中ニハ不純分子ガアル。ソノ名ノモトニナツタ Paspalum corymbosum Roxburg > HITCHCOCK 氏= ヨレバ (Lingnan Sci. Journ. VII. 211) 不確カナモノデ、恐ラク別物デアラウ。 本種ノ和名ハ早田博士ニョツテちもるめひ しばト命名サレタガ (Gen. Index Formos. Pl. 95, 1916)、コレハ Panicum sanguinale var. timorense Hackel, 1904 (= Digitaria sanguinalis var. timorense Hayata) ト言 フモノニ 1904 年以來間違ツテ當レラテヰタ時代 (FAURIE, no. 745) ニ付ケラレタ名デア ツテ、寧ロ var, evalvula =附セラレタ本田博士ノめなしばもど登が適當デアルト思ハレ ル。var. evalvula ハ尚他ノ種ヲ含ンデヰルコトガ判ツタガ、ソノ type ハ標本上ノ證據ニ ヨツテ、臺灣産ノモノ即チ D. microbachne デアルコトガ明ラカデアルカラデアル。ソレ ョリ後レテ細川氏ハ南洋産ノモノニ就テなんごくめひしばノ名ヲ與ヘテヰル。尚耿(KENG) 氏ガ海南島ノ唯一枚ノ標本カラ書イタ Digitaria hainanensis HITCHCOCK ex KENG, 1935 へ同氏が言フ様= D. pruriens =ハ近クナクテ、寧ロ D. microbachne =近イト思ハレル ガ、コノモノハ小穗ノ長サガ 2 mm = 過ギズ、小穗柄ハ 0.5-1.0 mm シカナイ由デアル。 臺灣ノ D. microbachne ハ 2.5 mm ノ小穂ヲ有シ、小穂柄ハ例外的=短イモノデモ 1 mm ニナルニ過ギナイカラ、コレトハ關係ガナイ様デアル。耿氏ハコノ種ガ更ニフィリッピンヤ 馬來ニアルコトヲ期待シテキル。

小笠原島産デ var. evalvula トサレテキルモノハ Digitaria pruriens Büse, 1854 (=Panicum pruriens Fischer ex Trinius, 1826=Syntherisma pruriens Arthur, 1919=Panicum sanguinale var. pruriens Drake, Fl. Polynes. Fr. 249, 1892=Paspalum sanguinale var. pruriens Hooker fil., 1896=Digitaria sanguinalis var. pruriens Hooker fil. ex Rendle, 1904 = Syntherisma sanguinalis var. pruriens Hooker fil. ex Rendle, 1904=Syntherisma sanguinalis var. pruriens Honda, 1930=Digitaria consanguinea Gaudichaud, 1830=Syntherisma consanguinea Skeels,

1913) デアル。コノ種ハ一見 D. sanguinalis = 近イ様 = 見エルガ、往々大形ノ株ヲナシ、下 部ハ膝曲シ時ニハソノ部カラ發根スルコトモアルガ、後者ノ樣ニ匍フコトハナイ。 葉鞘ニ ハ白色ノ長イ稍軟イモヲ開出シテ密ニ生ジ、花穂ヲ長ク抽出シ、痩穂ハ數多ク、 一般ニ十 數本ニ達スルコトモアリ、 頴果ガ成熟シテ落下スル時期ニ到ツテモ、 尙上方ニ直立シタマ マ、東ネラレタ様ニ集ツテキル。本種ハ小笠原島ニハ勿論日本ニハ初メテノ報告デアル。 和名ハ花穂ノ形狀カラ**はは色めひしば**トシタイ。 小穂ノ第一苞頴ハ全然ナイカ又ハ極小形 デ、長サハ 0.2 mm ヲ越エズ、第二苞頴ハ圓頭デモハ少ク、小穂ノ三分ノ一位ノ長サニシカ 達シナイ (Trinius, Sp. Gram. Icon Descr. I, t. 92; HITCHCOCK in Mem. Bernice P. Bishop Mus. VIII-3, 174, fig. 62參照)。元來ハハワイトマーケッサスデ記載サレタガ、今・ ハ、ポリネシア一般即チタウモツ、ルルツ、マカテア、ラロトンガ、ラパ及ビメラネシア ノ中サモア、ニューカレドニア、トンガ、ノイメックレンブルグ及ビニューギニア ノ高地 (HITCHCOCK in Brittonia II, 120) = 知ラレ、更= HILLEBRAND 氏=ヨレバモルッカス、 スマトラニモアルト言フシ、 HENRALD 氏ニョレバマレーシア一般ニ普通デアルト言ハレ ル。 本種ハ熱帶ニ於テ牛及ビ馬ノタメノ良好ナル乾草ヲ提供 スルモノ デアル由 デアル (HILLEBRAND, Fl. Hawaii Isl.; HITCHCOCK l.c.)。小笠原島デハ最モ普通デアルガ、日 本ノ他ノ地方カラハ確カナ報告ガナイ。ミクロネシアニモナイ様デアル。本種ハ Digitaria inguinalis var. pruriens Hooker fil. ex Rendle (in Journ. Linn. Soc. Bot. XXXVI, 326) トシテ例ノ RINGGOLD 及ビ RODGER 兩氏ノ探檢ニ植物學者トシテ參加シタ CHARLES WRIGHT 氏ノ採集品ニョツテ、 琉球カラ報告サレテキル。 コノ變種ノ同定ハ Paspalum sanguinale var. pruriens Hooker fil. (Fl. Brit. Ind. VII, 15) ニョッタモノト思ハレ ルガ、寘/ D. pruriens ガ琉球=産スルカドウカハ、ソレガ J. D. HOOKER 氏ガ言フ様= 印度ニ産スルカドウカガ疑問デアルト同様ニ甚ダ疑問ノ餘地ガアル。

琉球カラハ同ジク RENDLE 氏ニョツテ例ノ Captain BEECHEY ノ Blossom 號ニ同乘シタ LAY 及ビ Collie 兩氏ノ採集ニナル標本ニ基イテ Digitaria sanguinalis var. extensa Hooker fil. ex Rendle (l. c.) ガ報告サレテキル。コノモノハ印度デハ Paspalum sanguinale var. extensum Hooker fil. (l. c. 15)トシテ記載サレテキルガ、最近ハ D. extensa (Hooker et Arnott) Henrald in Blumea I, 100, 1934 (= D. marginata var. extensa A. Camus in Lecomte, Fl. Gén. Indo-China VII, 401, 1922) ナル獨立種トシテ認メラナレル様ニナツタ。本種モ同様= D. sanguinalis = 似タモノデアルガ、第一苞顯ガ非常ニ大形ニナツテ小穂ノ半長ニ達スルモノデアル由デアル。琉球カラノコノ様ナ標品ニ接シタコトハナイガ、RENDLE 氏ノ標本が眞ノ意味ノ D. extensa デアルカドウカハ原標本ヲ見ナケレバ斷定出來ナイ。

朝鮮ノ濟洲島カラ var. evalvulaトシテ報告サレタ標本ハ Digitaria chinensis Horne-MANNデアルト思フ。和名ハ**なよめひしば**トシタイ。本種ハ以前ニハDigitaria timorensis (Kunth) Balansa (= Panicum sanguinale var. timorense Hackel in Bull. Herb. Boiss. pro 1904, 528) トシテ知ラレタモノデアルガ、Christophersen 氏ノ紹介ニヨ

n | (Bernice P. Bishop, Mus. Bull, no. 128—Samoan Flowering Plants, 8, 1935) "HITCHCOCK 氏方 D. chinensis HORNEMANN Fl. Hort. Hafn. Suppl. 8 (1819) / type ヲ檢査シタ所、 D. timorensis (KUNTH) BALANSA, 1890 =他ナラナイコトガ判タノデ、 後者=代ツテ出版年代ノ古イ前者ヲ用ヒルコトニナツタ"ト言フノデアル。本種ハ以前= ハ D. debilis WILLD. ト見ラレテキタコトモアルガ、コレハ地中海方面ノモノデ別種デア ル。 本種モ又 D. sanguinalis =似テヰルガ全體ガ繊弱デ莖葉=ハ毛ハナク、(小笠原島 牽ノー標本ニハ葉身ノ基ニ 2-3 本ノ毛ガ認メラレル。)、 痩穂ハ 2-3 本アリ、稀ニ 4 本ニナ ルニ過ギズ、コレモ細小デ、第一苞顯ハ殆ンド見エナイカ又ハ極ク小形デ、狹三角形ヲ呈 シ長サ 0.2 mm 以下デ、他ノ上方ノ苞頴ョリ少シ隔ツテ下方=附イテキル。 第二苞頴ハ D. sanguinalis ト同様ニ尖ルガ小穗ノ半分以下デ住々 1-4 位ニシカ達シナクテ、ソノ上ノ 毛モ殆ンドナイカ、叉ハ綠邊ニノミ認メラレル程度デアル。 本種ハ小笠原島ニモ、南洋群 島ニモ産シ、 記錄ニヨレバハワイソノ他ポリネシア、マレーシア、南支、佛領印度支那ニ 分布スル。 東大ノ臺灣琉球ノ標本中ニハ見出セナイガ、恐ラク、同地ニモ産スルコトト思 ハレル。本種ハ D. sanguinalis ノ貧弱形 (特ニ南方型ノモノ) トノ區別が時ニ甚ダシク明 瞭デナイ。D. sanguinalis ハ南方ノ小笠原島ヤ臺灣=到ルト大體二ツノ型ヲ示ス様ニ思フ。 ーツハ全體ハ水やシクテ (flaccid)、無毛ニナリ、葉ハ厚ク短クナリ、匍ハズニ、痩むハ 内地産ノ型ノ儘ノ太サト數トデ短クチルモノデ、他ノ一ツハ葉質ハ薄ク、細ク、長クナリ、 一般ニヨク匍ヒ、瘦穗ハ2-4個ニ減ジ、且ツ細クナリ、小穂ノ配列ガマバラニナル。 前ノ 型ハ小穂ノ細部ノ性質がめひしばト殆ンド全ク同一デアルガ、後ノ型ニ於テハ第一、第二 ノ兩苞顯ガ、標準型ヨリ小サクナリ、コノ傾向ハ特ニ後ノ型ノモノノ中毛ノ少イ型、即チ 外見上、D. chinensis HORNEMANN ト區別ノ着キ難イ型ノモノニ於テ著シイ様デアル。即 チ第一苞頴ハ 0.3 mm 位迄連續的ナ段階ヲ經テ小サクナリ、第二苞頴ハ小穂ノ全長ノ二分 ノ一位迄ニ小サクナツテキル。シカシ、ソレデモ D. chinensis ノ第一苞頴ガ 0.2 mm 以下 シカナイノニ比ベレバソニ間ニ明カナ不連續ナ所ガアル様ニ思ハレル。 勿論、臺灣ニモ上 = 述べタ貧弱型ノ二者ノ中間ノ型ガナイワケデハナク、又標準型ノ D. sanguinalis ガナイ ワケデハナイ。後者ハ同地デアマリ暑クナイ所ニ生エルモノデアラウ。 シカシー般ニ臺灣 ノソレハ内地ノソレヨリモ貧弱デアルコトハ爭ハレナイ。 コレラノ貧弱型ハ内地ノ處々ニ モ生ズルノデ、こめひしばト稱セラレルモノノ大部分ハコレデアルコトハ上ニ述ベタ。或ハ 想像シテ 見ルニ他ノ多クノ 雜草ト同樣ニ めひしばモ 亦 ソノ一部ニハ少クトモ輸入サレテ、 繁殖シタモノモ含ンデキルニ違ヒナイ。 ソウシテ見ルト世界中イヅコノ他ノフローラヲ見 テモ D. sanguinalis ヲ含ンデヰナイ所ハナイト言ハレテヰル位一般的ナ雜草デアルカラ、 ソノオ互ヲ輸入シ合ツテ混淆スル筈デアル。 コノ種ノ中ニハ地方的ノ變化ヲ旣ニ生ジテキ テ、ツノ各型ノ中ノ一部ガ日本ニ輸入サレテ繁殖シテキルト言フコトハ考ヘラレナイコト デハナイ。或ハ更ニ想像スレバ、他ノ地ニ産シ D. sanguinalis ニ非常ニ近イ別種ガ今日本 デ D. sanguinalis トシテ通ツテヰルカモ知レナイ。モシソウ言フコトガアルトスレバ、ソ レハ上ニ述べタとめひしばノ種々型ガソレデアラウト思ハレルガコレニ關スル委シイ研究

ハ將來=俟チタイ。Digitaria formosana RENDLE, 1904 しまめひしば (松村: 植物名彙 9版, 142頁 1916)又ハたいわんめひしばハめひしばノ南方型ノモノデナイカト思フ。RENDLE 氏ノ記相文ヲ讀ンデ見テモ、ソノ中=決定的=兩者ヲ區別スル性質ハ書カレテキナイコトガ判ル。キュー植物園=アルtypeノ寫眞ハ幸ヒ=山本由松博士=ヨツテ發表サレテ(Journ. Trop. Agr. Taihoku, IX, 383, fig. 29) 見ルコトガ出來ルガ、ソレヲ見テモ反證ハ擧ラナイ。少クトモSyntherisma formasanaトシテ東大ノ標本室=アルモノカラハソウ思ハレル。var. hirsutaノ様=葉身ヤ葉輔=モガアリ、小穂=明瞭ナモガ出ルコトモ亦 D. sanguinalisノ戀化範圍=包含サレルト思フ。

上ニ述ベタ様= D. sanguinalis ハ世界中ノ溫帶カラ熱帶ニ一般ニ見出サレナイ所ハナイ 位デアルガ、熱帶ノモノハ別種トシテソレカラ分ツベキデアルト言フ意見ガ最近迄=NASH, STAPF, PILGER, HENRALDノ諸氏ニョツテ支持サレテ來タ。ソレデ熱帶性ノモノハ熱帶アメ リカデ初メテ記載サレタ Digitaria adscendens (H.B.K.) HENRALD, 1934 (= Panicum adscendens H.B.K., 1815 = Digitaria marginata Link, 1827 = Syntherisma marginata Nash, 1912 = Digitaria fimbriata Link, 1821 = Panicum fimbriatum Kunth, 1829 = Syntherisma fimbriata NASH, 1898 = Panicum Linkianum Kunth, 1929 = D. sanguinalis var. marginata Fernald in Rhodora XXII, 103, 1920 = Panicum sanguinale var. longiglume 1. marginatum Doell in Martius, Fl. Bras. II-2, 133, 1877 = D. marginata var. fimbriata STAPF, 1919) デアルト認メラレタ。NASH 氏ニヨ レバ (North Amer. Fl. XVII-2, 154) D. sanguinalis ノ小穂ノ長サハ 2.5 mm デ多少 圓味ヲ帶ビ、第二苞頴ハ小穂ノ牛長ニ達スルニ過ギナイガ、D. adscendens ノソレハ 3 mm 以上ニ達シテ細ク、第二苞題ハ小穂ノ四分ノ三又ハ五分ノ四ニ達シ、花穂ハ長ク抽出スル ド言フ。 小生が南洋ノパラオ島、及ビヤップ島デ採ツタ標本ハ小穂が 4 mm モアリ、第二 苞顯ハ小穗ノ五分ノ四位=達シ、第三苞顯ノ綠邊ノ軟毛ガ多イモノデアル。 ソレ故ニコレ ハ D. adscendens デアルト思ハレル。コノ標本ハ又フロリダ産ノ本種ト思ハレルー標本ト モ大體ニ於テ一致スルコトヲ確メタ。和名ハ新シク**ねつたいめひしば**トシタイ。日本デ充 分ニ發育スルめひしばハ南下スルニ隨ツテ既ニ小笠原島 及ビ臺灣ノ平地デハ貧弱ナ形ニナ ルノデアルカラ 南洋方面トノ間ニハ 確カニ分布上ノ 不連續サガアル様ニ 思ハレル。 尤モ NASH 氏ノ定義モ必ズシモ正確デハナイ。 歐洲ノ多クノ D. sanguinalis ノ標本ヲ検査シ テ見ルト多クハ小穂ノ長サガ 2.5 mm 程度ノモノデアツテ、第二苞顯ハソノ二分ノー=達 スルモノガ普通デアルガ、フランスノー標本デハ小穂ノ長サガ 3 mm ヲ僅カニ越シ、第二 苞頴モ又三分ノ二位ニ達スルコトヲ確メタ。日本ノめひしばノ多クハ小穂ノ長サガ 3 mm 前後ヲ示シ、中ニハ 4mm ニ近イモノモアリ、第二苞額ハソノ三分ノニニ達スルモノガ多 イガ、二分ノ一位ノモノモアル。又第一苞頴ニモ變化ガアツテ、ソノ長サハ 0.5 mm 位ノ所 ガ歐洲デモ日本デモ普通デアルガ、日本産ノモノハ 0.6 mm ニ達スルモノモアリ、小サクナ ツタモノデハ 0.3 mm =達スルニ過ギナイモノモアルノハ上ニ觸レタ通リデアル。 NASH 氏ニョレバ D. sanguinalis ノ第三苞頴ノ脈ノ上方ニ剛毛ガアルト言フガ (North Amer.

FI. XVII-2, 154) 日本及ビ歐洲ノモノニハソノ様ナモノハ認メラレズ平滑デアツタ。
HENRALD 氏ニョレバ D. adscendens ニモ又 pectiniformis 型ヲ生ズル由 (Blumea, l. c.)
デ、コレハ氏ニョレバ D. sanguinalis ト平行的=分化シタモノデアルト言フコトデアル。
臺灣ノ高雄ノ壽山デ A. HENRY 氏が採集シテ、RENDLE 氏ニョツテ Digitaria Henryi,
1904 へんりーめひしばトシテ記載サレター種ハソノ後 HITCHCOCK 氏 (Lingnan Sci.
Journ. VII, 211)、山本博士 (l. c. type ノ寫眞ハ382 頁ニアル。)ニョツテ更ニ南支、印度支那、スマトラニモ産スルコトが明ラカトナリ、又東大及ビ科學博物館ノ標本ニョレバ、沖縄及ビ與那國島ニモ産シ、 紅頭嶼ニモ産スルコトが判ツタ (臺灣以北ノ分布ハ新報告デアル。)又以上ノ分布型カラ見レバ或ハフィリッピンニモ産スルノデハナイカト想像サレル。
本種ノ茎ヤ葉ハ全然無モデ、普通形ノ D. sanguinalis ヨリ全體が小サク、花穂ノ軸ハ太ク直線的=出デ、痩穂ハ上向シテ、短ク、各ノ長サハ不揃ヒデアリ、小穂ハ小サク、2.5 mm 位、痩穂ノ軸・幅ハ 0.7 mm 位(HITCHCOCK 氏ニョレバ 0.5 mm)ニ達シ、第二苞顧ハ小穂ノ牛長又ハ以下デ、第三苞顧ハ顯果ヲ少シク超出シ、ソノ終邊ニハ上向性ノ絹狀毛が密生シ、特ニ先端デハソレが集ツテ著シイ。

以上述べタ邦産ノ各種ハ凡テ、頴果が披針形又ハ橢圓狀披針形デ、黄色、黄褐色又ハ淡 黄色 ニ熟スル性質ヲ有スルガ、更ニ臺灣ニ産スル、Digitaria sericea Honda, 1930 = (
Syntherisma sericea Honda, 1924), 登ぬげめなしば、Digitaria Hayatae Honda, 1930 (
=Syntherisma Hayatae Honda, 1924), びろーどめなしば、Digitaria magna (Honda),
TUYAMA comb. nov. (=Syntherisma magna Honda, 1930), おほびろーどめなしば、
Digitaria barbata Willdenow, 1813 (=Panicum barbatum Kunth, 1829), ふた
3ためひしばノ各種モ亦同様デアル。紅頭嶼ノミカラ知ラレキテル Digitaria Sasakii (Honda) Tuyama comb. nov. (=Syntherisma Sasakii Honda), なんごくめひしばモ
ホコノ群=屬スルガ D. Henryi = 非常=近イモノノ様=思ハレル。唯、第二、第三ノ兩電
額が全ク平滑デアル點が異ナル。上ノ中 D. barbata ハ臺灣ノ他=南支、馬來半島、ジャバ
ニアリ、痩穂ハ普通ニ個シカナク、廣ク開出シテソノ上=形態ノ全ク異ツタ小穂が一個宛
一組=ナツテ配列シテキルノデ、大分趣ノ虁ツタモノデアル。 本田博士ハコレニヨツテ
Heterosyntherisma ナルー新節ヲ設ケテ居ラレル。臺灣デハ1899 年= Hackel 氏ニヨツ
テ初メテ報告サレタ。往々本種ノ異名トサレル Digitaria heteranthum MERRILL ハ別ノ種
デアルト思フ。

以下ニ述ベル各種ハ、割合ニ小形ノ長橢圓形又ハ長橢圓狀卵形ヲ呈スル小徳ヲ有シ、領 果ハ黑色、黑褐色又ハ紫褐色ニ熟スルー群ニ屬スル。

日本ノ禾本學が未ダ黎明期ノ頃松村博士ハ牧野博士、田代安定氏、FAURIE 氏、TAQUET 氏等ト共ニ 禾本ノ専門家タル HACKEL 氏ニ採集品ヲ送付サレテ鑑定ヲ乞ツテ居ラレタ。 ソノ結果ハ HACKEL 氏ノ新研究トナツテ多クノ論文ニナツタガ、一方ソレハ松村先生ノ御 著書ニモ反映シタ。 先生ノ Index Pl. Japon. ニハ Panicum glabrum GAUDIN (p. 70) 及ビ P. violascens KUNTH (p. 73) ガ擧ゲラレテキルガ、其ノ後出版サレタ、同先生ノ政 訂植物名彙(9版) = モ又コノ兩種ハ別種トシテ登載サレタニモ關ハラズ、共ニあきめひじ、はト書カレテキル。 コレヲ文字通リニ解釋スレバ日本ニ於ルコノ二種ニ同一ノ和名ヲ與ヘラレタカノ様=見ラレルが、先生ハコノ兩種ノ異同ニ關シテ疑問ヲ持ツテ居ラレタ様ニ想像サレル。Index Pl. Japon. ノ中ノ P. glabrum ノ産地ヲ見ルト、HACKEL 氏が FAURIE 氏ノ採集品=基イテ日本産ノ其ノ種ヲ初メテ報告シタ時ノ (Bull. Herb. Boiss. pro 1899, 643) 産地ト全ク同一デ、ソレ以上ノ追加モナケレバ、差引モナイコトヲ知ルノデアル。ソレ位日本ノ學者ハ HACKEL 氏=賴ツテキタノデアル。所がソノ HACKEL 氏自身が後ニ述ベル様ニ、少クトモ初メノ中ハコレラヲ混同シテヰタノデハアルマイカ。シカシ後ニ到ツテ (Oesterr. Bot. Zeitschr. LI, 329, 1901) 氏ハコノ二種ノ特徴ヲ次ノ様ニ明除ニ書イタ。"P. glabrum GAUD. Annuum, decumbens; racemi 2-5, demum patentissimi, spiculae ternae, 2-2.5 mm lg., pedicellis glabris fultae, gluma II pube parce, pilis apice leviter clavatis.

P. violascens Kunth. Annuum, ascendens, racemi 3-5, demum patentissimi, 1-2 infimi distantes, spiculae ternae, 1.6-1.8 mm lg., pedicellis glabris scabris fultae; gluma II et III pube brevi non clavata."

コノ區別點ノ一部ハ松田定久氏=ヨツテ植物學雜誌 XXVIII 卷, 和文 359 頁=紹介サレテヰル。 同氏ハ日本産ノモノニハ觸レテヰナイガ、 中支ニ Digitaria violascens Link (=Panicum violascens) ヲ産シ、 満洲ニ゜Digitaria humifusa Persoon (=Panicum glabrum) ヲ産スルト言ツテヰルガ、コレハ全ク正シイ見解デアツタ。

サテ今日、日本内地産ノ Digitaria Ischaemum 即テあきめひしばト言ハレテ居ルモノ ヲ見ルト、明カニ三種ヲ交ヘテキル様ニ思フ。 コレヲ文獻ヲ度外視シテ標本ダケニヨツテ 見ルトソノ差違ハ次ノ様ニナル。 即チ、第一種ハ莖ハ平臥傾上シ、下部ノ各節デハ發根セ ズ、葉ハ割合ニ小サクテ莖上ニハ多クナク、鞘葉及ビ葉面下部ニ開出スル割合ニ長イ散毛 ヲ極小量ニ有スル以外ハ全ク平滑デアリ、痩穂ハ2-5個デアルガ3個ノ場合が最モ普通デ、 成熟期ニハ廣ク開出スル。痩穗ノ軸ニハ翼ガ出デテ平タク、ソノ幅ハ約 1 mm 許、小穂ニ へ伏毛が脈間ニ稍密又ハ疎ニ上向シ、ソノ先端ハ棍棒狀ニ肥大スルカ又ハ鈎形又ハ渦卷形 - 卷ク。乾燥標本デハコノ毛ハ多クノ場合縮レテヰル。小穂ノ長サハ 2.1-2.3 mm 許デ第 一苞顯ハ膜質デ廣ク截頭鈍形デ、强ク第三苞顯ニ密着シテキル場合ニハ見難イコトモアル。 第二ノ種ハ莖ハ斜上シ(貧弱ナモノデハ直立スルコトガアル。)、全體ハ大形デ時ニハめ ひしばノ普通ノ型ノモノ位ニハナルガ葉ハヨリ小サク、詰ツテ生ジ、莖ニ從ツテ上方ニ迄 到ル。 全體ハ無毛デアルガ、第一ノ種ト同様ニ葉面ノ基部ヤ葉鞘ニ毛ヲ散生スルコトガ多 イ。痩穂ハ2-9個デアルガ、4-5個ガ先端=集ルノガ普通デ、下方ノソレハ屢々稍離在シ、 極ク僅カナ例外ヲ除イテハ成熟期ニ到ツテモ廣クハ開出セズ、 屢々痩穗ノ一部ガ外方ニ向 ツテ灣曲スル。 痩穗ノ軸ノ幅ハ 0.8-1.1 mm デ普通ハ 1 mm 位デ小穂ノ長サハ1.65-1.9 mm アツテ、上ノ種ヨリ明カニ小サク第二、第三苞頴ノ脈間ニ伏毛ガ稍密ニ上向シテ平臥シ、ソ ノ先端ハ肥大セズ尖ル。第一苞頴ハナイカ、又ハ有ツテモ殆ンド不明瞭デアル。

第三ノ種ハ直立シ、一般ニ無モデアルガ、散生モヲ有スルコトハ上ノ種ト同様デアル、 葉ハ細ク長ク尖り、莖ノ上方ニハナク、別言スレバ花穂ノ軸ヲ長ク超出スル。軸ノ太サハ トノ二種ヨリ繊細デ、痩穗ノ敷ハ2-5個デアルガ、3-4個が普通デ、上端ニ集リ、直立ス ルガ先端ハ外ニユルク反曲スルコトガ多ク、時= 1-2 個ヲソノ稍下方=離在スル。 ソレラ ハ成熟期ニ到ツテモ廣クハ開出シナイガ外方ニ灣曲シテ來ルコトガ多イ。 痩穂ノ軸ノ幅ハ -0.6-0.7 mm デ、小穂ノ長サハ上ノ二者ノ何レヨリモ短ク、1.4-1.6 mmノ中ニアル。第一苞 顯ハ缺除シ、第二、第三苞頴ノ脈間ニハ自色平臥軟毛ヲ上向シテ密ニ生ジ、ソノ先端ハ尖ル。 第一ノ種ハ眞ノ Digitaria Ischaemum Schreber ex Mühlenberg, 1817 (= Panicum Ischaemum Schreber ex Mühlenberg, 1804 = Panicum glabrum Gaudin, 1811 = Digitaria humifusa Persoon, 1805 = Syntherisma glabrum Schrader, 1806 = Digitaria glabra Beauvois, 1812 = Panicum humifusum Kunth, 1829 = Paspalum ambiguum A. P. de Candolle, 1805 = Panicum ambiguum La Peyrouse, 1813) FT ツテ (Trinius, Sp. Gram. Icon. Descr. II, t. 149 参照)、日本内地デハ東大及ビ博物館 ノ標本ニ就テ、信濃、霧ケ峰、及ビ北海道、旭川ニ産スルコトガ判ツタ。 Komarov 氏ハ "Franchet 氏ガコノ種ガ日本ニ全然ナイト言ツテキルガ、ソレハ誤リデ、四國、土佐産 ノ標本ヲ見タ"ト言フガ (Fl. Mansh. I, 254)、コレハ分布上一寸疑問デアルカラ、再檢ヲ -要スル。 シカシ日本内地ニモ北方ニハ未ダ處々ニアルト思ハレル。滿洲ニハ松田氏モ指摘 サレタ様=極ク普通デアル。 本種ハドイツノエルランゲンデ最初ニ記載サレ、歐洲ニハ最 モ普通デアルガ、印度高地 (J. D. HOOKER 氏ニョルトヒマラヤ、カシュミール、シムラ)、 西チベット、奥支那(RENDLE氏ニョルト新疆省貴州省)、満洲、シベリア、北支那(MAXIMO-WICZ 氏—Prim. Fl. Amur. 328—ニョルトウスリー、アムール、北京附近)ニ分布シ、北 米ニモ輸入サレテ多ク野生化シテキル。松村先生時代ニハ日本内地デハ眞ノD. Ischaemum ハ少クトモ日本人ニョツテハ殆ンド採集サレテキナカツタラシイ。 和名ハ新ラシク登れめ "ひしばトシタイ。 日本デハ北方的ノ分布ヲ有スルカラデアル。本種ノ異名ノ中 Panicum lineare Krocker, 1787 ハ Panicum Ischaemum Schreb. ex Mühlenb., 1804 ョリ早 イガ、Panicum lineare L., 1762 ナル印度産ノ別種 (Ind. Kew. ニ南米産トアルノハ製) ニ附セラレタ先行名ノタメニ用ヒラレナイ。

第二ノ種へ Digitaria violascens Link, 1827 (= Panicum violascens Kunth, 1829) デ、熱帶アメリカ (ブラジル) デ初メテ記載サレタガ、北米ニモ普通デアリ、印度カラ支那=分布スルコトガ判ツテキル。牧野博士ガ**多送めなしば**ト命名サレタ (植物學雑誌 X 巻、和文 315 頁) モノガ本種デアルコトハ、東大ニアル標本上ノ先生ノ手書ニョツテ判ル。又同先生ガ横濱及ビ東京デ採集サレテ、コレトハ別種デアルト思ハレテひめひじはト命名サレ、或ハ Panicum commuttatum デハナイカトサレタモノガアルガ、ソノ時東京デ採ラレタ標本ヲ東大ノ標本室デ見ルト、コレ又同ジクあきめひしばデアルコトガ判ル。コレハ現在迄ノ通念ト同ジアル。**あらげめなしば、**Digitaria violascens var. lasiophylla (Honda) Tuyama comb. nov. (= Digitaria Ischaemum var. lasiophylla Hiyama, 野草 III-4,

63, 1937 = Syntherisma Ischaemum var. lasiophylla Honda) ハ葉身ヤ葉鞘 = 開出シタ、 稍長イ毛ヤ短毛ヲ稍密生スル變種デ、type ハ濟洲島産ノ Taquet no. 5026 デアル。コノ 様ナ毛ヲ有スル型ハ次ノ種ニモ現ハレル。

第三ノ種ノ學名ニ就テハ問題ガ多イガ、次ニ段やト述べヨウ。MERRILL 氏ハフィリッピン ノ植物ヲ研究シタ時ニ本種ヲ前ノ D. violascens ト混同シテヰタガ (Fl. Manila, 88) 後 ソレ=気ガツイテ Digitaria chinensis (NEES) MERRILL, 1922 (= Paspalum chinense NEES EX HOOKER et Arnott. 1836 = Digitaria chinensis Camus. 1923) | > 9 (Enum. Philip, Flow, Pl. I. 53、ココニ於テ實ハ間違ツテ D. chinensis NEES トシテキル。)。コ ノ設ニ HITCHCOCK 氏モ一時ハ替成シテ Syntherisma chinensis (NEES) 1922 ヲ用ヒタ。 シカシ HITCHCOCK 氏ガ P. chinense NEES / type ヲ檢査シタ所、D. violascens Link = 渦ギナカツタコトガ判ツタ (CHRISTOPHERSEN in Bernice P. Bishop, Mus. Bull. no. 128.8 参照)ノデ本種ノ學名ニハ用ヒラレナイノデアルガ、ソノ上 Digitaria chinensis HORNEMANN, 1819 ナル先行名マデアルノデ、Digitaria ノ下デハ絕對ニ用ヒラレナイ。 NEES 氏ノ塁名ヨリ古イ名デ問題ニナリサウナモノが尚二ツアル。第一ハ Paspalum fuscum J. S. Presl in C. B. Presl, Relig. Haenk. I, 213, 1830 (=Syntherisma fusca Scribner, 1899 = Digitaria fusca Merrill, 1928 = Panicum fuscum Presl ex Doell, pro syn. 1877) デアル。所が Prest 氏ノ記載ヲ讀ンデ見ルト問題ノ種ニ合ハナイコトガ 多イ。MERRILL 氏ニヨルト (Philip. Journ. Sci. XXXV, 4)、PRESL 氏ノプラーゲニア ル原標本ノ臺紙ニハ Digitaria longiflora ト問題ノ種ノ兩方が貼付シテアリ、 PRESL 氏 ハソノ兩方カラ記載ヲ取ツタガ、"莖ガ匍フ"ト言フ性質ハ前者カラ取ツタガ、他ノ多ク ノ點、例へバ"瘦穗ガ8-15個ダ"ト言フ性質ハ明ラカニ問題ノ種ノ方カラトツタト言フ。 又ソノ他ノ大部分ノ記述ハ問題ノ種ニ通用スルカラ、 コノ名ヲソノ學名トシテ用ヒルコト ガ出來ルト言フ。 コノモノノ産地ハ PRESL 氏ニヨルト "Hab. in Luzonia? in Peruviae montanis huanoscensibus? Mexico?"トアツテ同氏ノ他ノ種ノ例=多クアルト同様=甚ダ 不明瞭デアルガ MERRILL 氏ノ推測ニョルト、ソレハフィリッピンデアルラシイト言フ。所 ガ HITCHCOCK 氏ニョルト、原標本ヤ原記載ガ不純デアルノデ、採用サレナイバカリデナ ク、Digitaria fusca CHIOVENDA, 1919 ナル先行名ガベルギー領コンゴーデ記載サレテキ ルノデ決定的=採用デキナイト言フ (Lingnan Sci. Journ. VII, 212)。HITCHCOCK氏ハ ソノ代リニ D. chinensis ヲ用ヒルノデアルガ、ソレガ不可ナノハ前ニ述ベタ通リデアル。 問題=ナル第二ノ學名ハ Paspalum fuscescens J. S. Prest in C. B. Prest, l. c. I, 213, 1830 (=Syntherisma fuscescens Scribner, 1899 = Digitaria fuscescens J. W. Moore, 1933 = D. fuscescens Henrald, 1930) デアル。Moore 氏ハ D. chinensis ノ代リニ D. fuscescens ヲ用フ可キデアルト言フガ、PRESL 氏ノ原記載ニヨルト苞額ハ全ク無毛デ、基 ノ下方ハ匍フト言フ點ハ現品ニ合致セズ、又 SCRIBNER 氏ノ BERNHARD 標本(ミズーリ植 物園=アル。) =アル Prest 氏ノ副原標本ノ圖 (Ann. Missouri Bot. Gard. X, Pl. X-1) ニョツテモソノ様ニ判斷サレ、更ニ HENRALD 氏ニョツテモ苞頴ガ全ク平滑デアルコトガ

確認サレテキル (Meded. Rijks Herb. Leiden, no. 61)。 コノ種ハ Prest 氏ニョツテ ペルーノ山岳地方ニ産スルト書カレタガ、同書ノ訂正欄デ氏自身ニョリカリフェルニア産デ アルト正サレテキル。ソレ故ニコノ學名モ亦不採用ト決ル。ソレデハ、NEES氏ノ學名以後 デ問題ニナリ得ルモノヲ並ベテ見ルト、Paspalum minutiflorum Steudel, 1854: Paspalum filiculme NEES ex THWATES, 1859-64; Syntherisma Helleri NASH, 1897 FTRO STEUDEL 氏ノ名ハ多クノ人ベニョツテ種ベノ植物ノ異名ニサレタガ、小生ニハコノモノノ 本體ハヨク判ラナイ。シカシ Paspalum minutiflorum DESVEAUX, 1831 ナル先行名が存在 スルノデ、如何ナル屬ノモトニモ、最早用ヒラレナイコトハ確カデアル。NEES 氏ノ名ハ惜 シイコトニ裸名デアツテ、ソレ以後ノ文獻ハჯノ様ニナル。 Panicum filiculmis NEEs ex THWAITES, Enum. Pl. Zey. 358, 1859-64; Wight, Cat. no. 1604; Trimen. System. Cat. Flow. Pl. Fer. Ceyl. 104, 1885; MIQUEL, Prol. Fl. Jap. 162, 1866; Franchet et SAVATER, Enum. Pl. Jap. II, 159, 1876–77. WIGHT, TRIMEN 兩氏ノ名モ亦裸名デアツ テ、結局 MIQUEL 氏ニョツテ初メテ命名上有效ニサレタコトニナル。MIQUEL 氏ハ WIGHT 氏ノ標本上=書カレタ NEES 氏ノ學名ヲ採用シタガ、記載文ノ基ニナツタモノハ SIEBOLD 氏が Iwajagama ト Usogami 附近 (長崎市ノ岩屋川?浦上?) デ採集シタ標品デアル。即チ Paspalum filiculmis NEES ex MIQUEL ノ type ハソレガ初メテ印度産ノモノニ名付ケラ レタニモ關ハラズ、日本産ノモノニナル譯デアル。 SIEBOLD 氏ノ標本ヲ記載スルニ當ツテ MIQUEL 氏ハソレガ或ハ Paspalum brevifolium (即チ今日ノDigitaria longiflora 或ハモ ツト正確ニハ D. pseudo-ischaemum) デハナイカトノ疑問ヲ持ツタガ、トニカク、上ノ名 デ發表シタノデアル。今ハ SIEBOLD 氏ノ原標本が見ラレナイノデー寸困ルが、MIQUEL 氏 ハソレト同時ニ、ソノ交ノ項=同ジク日本産ノ SIEBOLD 氏ノ採集標本=基キ、Paspalum filiforme SWARTZ ヲ報告シテ、兩者ヲ比較シテキル。 コノ兩者ハ上ノ第二及ビ第三ノ種 ノ何レカデアルコトハ前後ノ事情カラ想像出來ル。MIQUEL 氏ノ所謂 P. filiforme ハ氏自 身ノ言ヲ借リテ言へべ、"Superiori affinis sed tenerius, culmi debiles humiliores magis foliosi, spiculae quamvis similes, minores"ト言フノデアツテ、今後者ヲ第三ノ種 トシ前者ヲ第二ノ種トスレバ、誠ニピッタリスルノデアル。ソウスルト Pasp. filiculme モ 亦第二ノ種ノ異名ニナツテシマツテ、問題ノ第三ノ種トハ關係ガナイコトニナル。MIQUEL 氏ニョツテ記載ガツケラレル前ノ Paspalum filiculme NEES ハ多分ニ不確カナモノデアル ラシク、TRIMEN 氏ハ Handb. Fl. Ceyl. V, 124, 1900 中デ Digitaria longiflora ノ異名= 加ヘテキル。 ハワイデ記載サレタ Syntherisma Helleri NASH in Minnesota Bot. Steud. I, 798, pl. 44, 1897) ハ比較的ニ新シク記載サレタタメニ長イ記相文ヲ伴ツテヰル。本種 ハハワイノ禾本ハ自身デモ研究シテ大變委シイ HITCHCOCK 氏ニョツテ、 D. chinensis (NEES)ト同一種ト認メラレテキルシ、又同氏ハ廣東ノ禾本ニモ委シク同地ノ D. chinensis (NEES) モ熟知シテキルノデアルカラ、廣東方面カラ更ニ日本ニ迄擴がツテキルト考へラ ・レル第三ノ種トモ亦同一種デアルコトハ疑ヒナイト思フ。 唯 NASH 氏ノ記相文ノ中デ第 二苞頴ガ7脈ヲ有スルト言フノハ見誤リデアルト思フ。 コノ種ノ第二苞頴ハ近綠種ト共ニ

常=3脈デアル筈デアル。ソレ故= Digitaria Helleri(NASH)ノ新組合セラ必要トスル様=思ッタ。所が最後ノ瞬間=於テ、京大理學部ノ植物學教室所藏ノ JUNGHUHN 氏著 Plantae Junghuhnianae, Enumeratio Plantarum quas in Insulis Java et Sumatra detexit Fr. JUNGHUHN(本著作ハ普通 MIQUEL 氏ノ著トナッテヰルガ、同氏ハソノ中ノ一部ノ擔當者=過ギナイ。)中ノ BÜSE 氏ノ記相文ヲ讀ユコトガ出來タ結果、 Digitaria ropalotricha BÜSE, 1854 コソ第三ノ種ノ正シイ學名デアルコトヲ發見シタ。 コノ名ハ C. A. BACKER 及ビ D. F. VAN SLOOTEN 兩氏ノ Geillustreerd Handboek der Javanische Theeonkruiden p. 50, pl. 50 ヲ見ルニ及ンデ、更ニ確メルコトガ出來タ8

一寸横道ニナルガ MIQUEL氏ハ SIEBOLD氏ノ日本ニ於ル採集品ニ基イテ、他ニ Paspalum brevifolium FLüggE ヲ報告シテキルガ (l.c.)、 コレニハ何等ノ説明ヲ加ヘテキナイノ デ、原標本ヲ見ナイ中ハ何デアルカ判斷デキナイ。 FRANCHET, SAVATIER 兩氏ハ Enum. Pl. Japon. II =於テ、MIQUEL 氏ト同様=、 Paspalum brevifolium, P. filiculme, P. filiforme ノ三種ヲ報告シテヰル。コノ中第一ノ P. brevifolium ハ横須賀附近ノ稻田ノ中 デ採ツタモノノ由デ、記載カラ判斷スルト Digitaria violascens デアルト思ハレル。唯、 小穂ノ小サスギルコト (1 mm ヨリ一寸大キイト言フ)、ソレガ無毛ダト言フコトハ實際ト 合ハナイ點デアル。 花ハ十月= 咲クト言フ。 第二ノ P. filiculme ハ第一ノ種=似テキル ガ、ソレヨリ長イ葉ト、長イ痩穂トヲ有スルト言フカラ、恐ラク Digitaria ropalotricha デ アルト思ハレル。第三ノ P. filiforme ニ就テハ、ソレニ當ル日本産ノ標本ヲ未ダ見テキナ イト言ツテヰルガ、事實日本= P. filiforme (=D. filiformis) ガナイコトハ後=述ベル。 HACKEL 氏ハ日本内地産トシテ、Panicum glabrum, P. violascens, P. parvulum ヲ報 告シテキル (Bull. Herb. Boiss. pro 1899, 643)。 FAURIE 氏ノ標本ヲ見ナイ中ハ斷言ハ 憚ルガ、第一ノ種ハ擧ゲテアル産地カラ見テ、Digitaria Ischaemum ト D. violascens ト ノ混合物デアラウト想像スル。 第二ノ種ハ後ニ沖繩ヤ臺北カラモ報告シテキルカラ (l.c. 721、723)、D. ropalotricha デハナイカト思フ。尤モ朝鮮カラ報告シタ P. violascens (l. c. pro 1903, 501) ハ眞物カモ知レヌ。第三ノ種ハ Franchet, Savatier 兩氏等ノ文獻ニョツ テ紹介シタモノニ過ギナイシ、氏ニョレバソレガ兩氏ノ Paspalum brevifolium (即チ今 日ノ Digitaria longiflora) =當ルト言フガ、兩氏が旣=當テ違ヒヲシテヰル以上ハ、眞ノ D. longiflora ガ日本ニ報告サレタコトニハナラナイ。尤モ後ニ同氏ニョリ同名ノモトニ臺 灣デ報告サレタモノハ屈尺 FAURIE no.744 デ、コレニツイテハ後述スル。

サテ本題=歸ツテ、Digitaria ropalotricha ノ和名ハ新シク**たちめなしば**トシタイ。日本内地デハ南部ノ紀州ヤ九州中南部及ビ東部?、屋久島=分布シ、琉球ヤ臺灣デハ相當大形= 生育スル。小笠原島=モ多ク入ツテ居リ、南洋群島=モアル。又南支、フィリッピン、印度、熱帯オーストラリヤ、ハワイ、ポリネシア=分布シテキル。前述ノ様=本種=モ亦薬鞘ヤ薬 身=毛ノ多クアルモノガアツテ、ソノ學名ハ Digitaria ropalotricha var. villosa (Keng) Tuyama, comb. nov. (=Digitaria violascens var. villosa Keng in Sunyatsenia vel Journ, Bot. Inst. Sun Yatsen Univ. Canton III-1, 19, 1935)トシ、けたちめなしばト 呼ビタイ。コレハ最初 HITCHCOCK 氏ニョツテ廣東附近ニ稀ニアル由ヲ報ゼラレ、耿氏ニョツテ、更ニ安南ニモアルコトガ判ツタ。日本デハ肥後カラコレニアタル標本が得ラレタ。耿氏ハコレヲ D. violascens ノ變種ニスルケレドモ氏ノ記載カラ見テ(小穂ハ長サ 1.5 mm ナリト言フ。)、D. ropalotrichaノ變種ト思ハレル。HITCHCOCK氏ガ廣東デ D. Ischaemumト報告シテキルモノ (Lingnan Sci. Journ. VII, 211)ハ、分布上カラ見テモD. violascensデアルト思ハレル。ソウシテ見ルト耿氏ノ變種ハ眞ノ D. violascens ノ變種デハアルマイカ、即チ上記ノ D. violascens var. lasiophyllaト同ジモノデハアルマイカトノ疑ヲ生ズルガ、氏ノ文章カラシテ、氏ノ D. violascens ハ D. chinensis (NEES) ヲ意味スルモノデアルコトガ判ルノデ、ソノ心配ハナイ。

臺灣 - Digitaria longiflora (RETZIUS) PERSOON ガアルト言ツタ最初ノ人ハ RENDLE 氏(1.c.) デアル。東大ノ標本室ノ中ニ、早田博士ニョツテ D. longiflora ト鑑定サレタ臺灣産ノ標本ハ二枚(一枚ハ上述ノ FAURIE no. 744) アルガ、二枚トモソレ (HENRALD 氏ニョルト、D. longiflora ハ米洲ノモノデ、東洋ノモノハコレニ極ク近イ Digitaria pseudo-ischaemum Büse デアルト言フ。前者ハハワイニ迄ハ確カニ來テキル。—Meded. Rijks Herb. Leiden no. 61)トモ 又 D. pseudo-ischaemum トモ聊カ異ツタモノデ D. ropalotricha デナクテモ、ソレニ非常ニ似タモノデアルガ、莖ヤ葉ノ性質ガ少シク異ル様デアルノデー寸保留シテ置キタイ。 ちゃぼめひしばノ名ガ若シ殘ルトスレバコレニ殘ルノデアラウ。 Digitaria pseudo-ischaemum Büse ハ長ク匍フ莖ヲ有シ、葉ハ短ク、厚質デ、痩穂ハ敷少ク 3-4 cm シカナイモノデアルシ、又顯果ハ淡黄色ヲ呈スルモノデアル。臺灣ノ標本デコレニ當ルモノハ京大ノ標本室デ見タコトガアル。 コレニ對シテは公めなしばノ新和名ヲ與ヘタイ。

臺北デ牧野先生が採集サレター枚ノ標本 (基隆、Nov. 4, 1896) ハ上記ノ何レデモナイ。一見たちめひしば=似テヰルが、莖ハ側ツテ各所ョリ發根シ、上端ハ斜上シテ高サ十数 cm = 及ビ、葉ハ長サ 3 cm 幅 3-4 mm 許デ線狀ヲナシテ軟カク、葉鞘ト共=稍長イ或ハ短イ毛ヲ混合シテ稍密=開出シテ生ジ、痩穂ハ 3-4 cm 許デ 3-4 個ヲ集リ生ジテ開出シ、小穂ハ 1.3-1.5 mm デ苞顯ノ脈間=ハ白軟毛ヲ密=臥生スル。コノモノノ學名ハ Digitaria pertenuis Büse, 1854 デ(委シクハ痩穂軸=剛毛ヲ有シナイカラ β . glabrescens Büse=圏スル。)、スマトラ附近ノバンカ島デ最初=記載サレタモノデアリ、和名ハ**うぶげめひしば**トシタイ。原記相文ハ簡單ナモノデアルが大體=於テ要ヲ得テヰル。Henrald 氏ニョレバ D. pertenuis ノ小穂ノ長サハ 1.2 mm デアルト言フガコノ點ハ一寸臺灣ノモノ=疑問ノアル所デアル。同氏ハ Ridley 氏ノ D. pertenuis ハ D. pseudo-ischaemum デアリ (Fl. Malay Penins. V, 214) A. Camus 女史ノ D. pertenuis モ又何カ別物がト言ツテヰル。 (Lecomte, Fl. Géner. Indo-Chine VII, 404参照)。ソレ故臺灣ノ D. pertenuis ガコレラノ記載ト一致シナイコトハ當然ノコトデアル。

以上述ベタD. Ischaemum以下ノ四種ハ何レモ痩穗ノ軸=翼ガ出ル系統ノモノデアルガ、臺灣ニハ別=翼ガ全然出ナクテ、シカモ廣橢圓狀ノ小穂ヲ有シ上ノ四種ヨリ全體ガ遙カニ

繊細ナ外觀ヲ呈スルモノガアル。和名ハ**ほそめなしは**デ從來 D. filiformis Koeler, 1802 (=Panicum filiformis Linnaeus, 1753=Paspalum filiforme Flügge, 1810—non Swartz=Syntherisma filiformis Nash, 1895)、ト呼バレテ來タガ、實ハ Digitaria pedicellaris Prain, 1903 (=Paspalum pedicellare Trinius ex Steudel, 1840=Panicum pedicellare Hackel, 1906) デアル。前者ハ熱帶アメリカノモノデアリ、後者ハ印度カラ初メテ記載サレタモノデアツテ、 互=ヨク似タモノデアルガ、 前者ノ小穂ハ長サハ1.8 mm デ、小穂杯ノ長イ方ノモノハ小穂ノ長サト同長位デアルガ、 後者ノ小穂ノ長サハ1.3-1.5 mm 許=過ギズヨリ小形デアルガ、 小穂杯ノ長イ方ノモノハソレトハ逆=小穂ノ長サノ二倍以上モアツテ互=異ツタモノデアル。 コノコトハ記相文ノ比較及ビメキシコ産ノ D. filiformis ノ質物ノ標本カラ確メ得タ。唯 Hackel 氏ノ指摘スル第三苞頴ノ脈ノ差ハ明ラカデハナカツタ。D. pedicellaris =アツテハ小穂杯ハ開出スル由デアルガ、東大ニアル臺灣ノ唯一枚ノ標本デハソノコトハ確メラレナカツタ。「臺灣ノ標本デハ苞頴上ノモハ腺モト言フヨリモ先端ガー寸棍棒狀=膨レテキルノデ、ソノ程度ハ D. Ischaemum =於ケルモノヨリモ低イ。本種ハ印度、ビルマ、フィリッピン等=分布シテキルコトガ例ツテキルの

筒コレラト同ジ群=入ルト思ハレルモノ= Paspalum minutiflorum STEUDEL Variat: culmis caespitosis humilioribus (½-¾-pedalibus); racemis binis vel ternis, quarto saepe remotiore. Japon. (Synop. Pl. Gram. I, 17) ガアツテ、特=日本産ト斷ツテアルガ、如何ナルモノデアラウカ。 以上デ日本及ビ臺灣産ニハー通り觸レタガ、臺灣ニハ未ダ多クノ雑草的ノ Digitaria ガ未鑑定ノ儘強ツテキルノデハナイカト思ハレル。

日本産ノ Digitaria 屬ノ中小笠原島産ノ Digitaria platycarpha STAPF (=Panicum platycarphum Trinius, 1934 = Panicum tristachyum Hackel, 1904 = Syntherisma platycarpha Honda, 1930) し独容や5岁しばい最モ變ツタモノデアル。 (Trinius, Sp. Gram. Icon. Descr. III, t. 356 參照)。 本種ハ同地ノ父島ャ弟島ャ兄島ノ岩山ノ上ノ秀地 = 同地= 特有ノ Crepidiastrum grandicollum, Aristida boninensis, Sedum boninense 等ノ草本ト共ニ、日照ノ强イコトト、風ノ强イコトト、乾燥シテヰルコトカ組合サツテ、高 山植物ノ群落ニ似タ、狀態ヲ呈シ、輸入ノ雑草ニ犯サレナイ原ノ植物相ヲ示シテヰル。 本 種 ハ D. Gaudichaudii HENRALD (マリアナ列島産)、 D. pectinata HENRALD (テモール 島産), D. pacifica Stapf (クリスマス島産), D. stenotaphroides Stapf (カロリン群島ヨ リパウモツ島ニ到ル間ニ産ス。)ト共ニ分類學上孤立シタ Solitaria 節ヲ作リ、分布上興味 ク深イモノデアル。コノ節ノ特徴ハ、上ニ述ベタ他ノ凡テノ種ガ痩穗軸ノ―個所カラ小穂ガ 二個又ハ二個以上ガ組ニナツテ出ルノニ對シテ、各小穂ハ獨立シテキルノデアル。 STAPF (Kew. Bull. pro 1906, 78) HENRALD (1. c.) PILGER (ENGLER, Pfl.-fam. ed. 2, 14-e, 52) ノ諸氏ハ本節中デ小笠原島産ノモノノミハ山頂ニ生ジテ居ルノニ對シテ、他ノ種ハ皆、大洋 中ノ珊瑚礁島上ニ産スルト强調シテ言ツテキルガ、 小笠原島デモ必ズシモ高イ山頂ニアル 譯デハナク、特ニ中硫黃島ヤ、南硫黃島デハ極ク海岸ニ近イ所ニモアツテ、他ノ種ト特ニ違

ツタ所ニ生エテキルトハ言ヘナイ様デアル。本種ノ異名ノ中、P. platycarphum TRINIUS ト P. tristachyum HACKEL トハ、前者ハ先ニ述ベタ C. WRIGHT 氏ノ、又後者ハ松村博 士/限ラレタ少數/標本ニョリ各獨立ニ記載、發表サレタタメニ、ソノ記相文ニハ多少/ 食と違ヒガアル。 HENRALD 氏ハコレヲ指摘シテ (Meded. Rijks Herb. Leiden, no. 61, 18) モシ兩者ガ別種ニ屬スベキモノトスレバ、 $D.\ tristachya$ (Hackel) ニハ旣ニ $D.\ tri$ stachya Schultes, 1824 ナル先行名がアルカラ、新ラタニコレニ對シテ D. Matsumurae HENRALD ヲ用意スルト言ツテヰルガ、コノ新名ハ全ク不用デアル。 何トナレバ、小笠原 島ニハ、小生ノ見ル所、實際一種類シカナイシ又兩氏ノ記相文ノ差違ハ單ニ標本上ノソレ ニ過ギナイ。唯 TRINIUS 氏が小穂が鋭頭デアルトスルニ比シ、HACKEL氏 ハ第三苞題が長 橢圓デ著シク鈍頭デアルト言ツテキルガ、コレハ矛盾スルモノデナク、兩方共二眞デアル。 即チ顯果ハ尖ツテキテ小穗全體ニ尖ツテキル外觀ヲ與ヘルガ、ソレニ密着スル第三苞顯ハ、 ソレヨリ 0.5 mm 位短カク、且著シク鈍頭ナノデアル。コノ特徴ハ同ジ節ノ中ノ他ノ種 トノ重要ナ區別點ノ一ツトナル。 又第三苞額ニツキ、 TRINIUS 氏ハ七脈ヲ有スルト言ヒ HACKEL 氏ハ五脈ヲ有スルト言フガ、後者ハソノ背面ノ平タイ部分ニダケニアル脈ヲ數へ タモノト思ハレル。 事實、第三苞頴ノ腹面ニ折曲シテキル部分ノ脈ノ數ハ見ルコトガ不便 ナノデ HACKEL 氏ノ様ニ數ヘル禾本學者が多イノデアル。

最後=我ミクロネシア産ノ Digitaria ノ中、最近二重=出版サレタモノガニ三アルガ、 ソレハ矢ノ様=整理出來ル。

Digitaria Mezii Kanehira, Fl. Micrones. (南洋群島植物誌) 401, 1933 (=Digitaria mariannensis Mez, 1924=Syntherisma Mezii Hosokawa, 1935=Digitaria latronum Henrald, 1934, syn. nov.—non Digitaria mariannensis Merrill, 1914), めっつめ なしば。

Digitaria stenotaphrodes Stapf, 1906 (= Panicum stenotaphrodes Nees ex Steudel, 1854=Syntherisma stenotaphroides Chase, 1906=Syntherisma stenotaphrodes Hosokawa, 1935), たいへいやりがはしば。

Digitaria Gaudichaudii Henrald, 1930 (=Digitaria stricta Gaudichaud, 1826 =Syntherisma stricta Hosokawa, 1935—Panicum Gaudichaudii Kunth, 1833—non Digitaria stricta Roth, 1821), はまめなしば。

以上 / 他同地 = ハ先 = 觸レタ D. chinensis HORNEMANN, なよめひしば、D. microbachne HENRALD, めひしばもどき、D. adscendens HENRALD (=Syntherisma ciliaris (non Schrader) Hosokawa I. c.),ねつたいめひしば、D. ropalotricha Büse, たちめひしば D. longiflora Persoon,はひめひしば (コレハ標本ヲ見テ居ナイガ D. pseudo-ischaemumカモ知レナイ。) / 他 = Digitaria mariannensis MERRILL, 1914, **まりあねめひしば、Digitaria Robinsonii** MERRILL, 1914, **なんやうめひしば**/諸種ヲ産スル。